



中国ブロ
グ “狂気と正

江田島健児

今日（2013年2月20日）凄いニュースがあった。

飛行機の通路で堂々と・・・混雑する機内でまさかのモラルなき行為、写真公開にネット騒然—
中国

XINHUA.JP 2月20日（水）0時1分配信

【新華網】 中国では春節（旧正月）連休が終わり、Uターンラッシュが続いている。交通機関が

混乱する中、「中国版ツイッター」と呼ばれる新浪微博のユーザーが、衝撃的な情報と写真を公開した。飛行機の中の通路で子どもに大便をさせる親がいたというのだ。東方網が伝えた。

「@某航機長」と名乗るこのユーザーは16日、「飛行機には3カ所のトイレがあるというのに、ある親がそこそこに大きな子どもに通路で大便をさせていた」と暴露。証拠として緑色の服を着た子どもが座席のそばにしゃがんで大便をするシーンや、終わった後に親がお尻を拭くシーンとする写真4点を公開した。

ほかのユーザーからは「衝撃的すぎる」といった反応が続々。「こうした非文明的な行為を罰するため、規則を整えるべき」との声も上がった。

（翻訳 崔蓮花/編集翻訳 恩田有紀）

中国にデズニーランドが開園した当時、幼い子どもを連れた親が園内のあちこちで、人目もはばからず子どもに小便、大便をさせていた記事を読んだことがある。モラルといえばモラルだが、これには習慣や生活の質も絡んでいる。30年以上も前の訪米当時から、メキシコや中南米からアメリカにきたスパニッシュが、便所で尻を拭いたトイレット・ペーパーを水で流さず、トイレのゴミ箱に捨てていた。そして今でも彼らの幾人かはまだ大便をして尻を拭いたトイレット・ペーパーをトイレのゴミ箱に捨てている。日本人には恥もあれば、人目を気にする配慮もある。英語に“Shame on you!”という言葉がある。常識や道徳を知らない人間に対して発せられる言葉である。この英語を知る人間はこんな行為は絶対にしないであろう。公私を知っている人間もこんな行為は絶対にできない。ちゃんとしたトイレがあり、トイレット・ペーパーといわれる紙を使用している日常があれば、飛行機の通路で大便をするなんてことは起こりえない。いくら中国が世界経済第二位の大国になったとしても、道徳や倫理観念がこれくらいでは・・・・・・・・。しかしこれくらいの道徳や倫理観念で政治を行ってもらっては世界が迷惑するのだ。であっても本人は全然わかっていないから、我々は一時も目を離してはいけない。

昨日の今日（2013年2月21日）、ヤフー・ニュースの国際版で「恥を知る心」と「責任感」に関するRecord Chinaの記事が目にとまったので、その記事を記します。

<レコチャ広場>中国の役人たちよ、日本人から「恥を知る心」と「責任感」を学ぶべき—中国
配信日時：2013年2月21日12時26分 Record Chinaより

2013年2月20日、中国の著名な時事評論家・風青楊（フォン・チンヤン）氏はブログに「中国の役人は日本の役人から何を学ぶべきか？」と題した記事を掲載した。以下はその内容。

この世で日本ほど中国人に複雑な感情を呼び起こす国はないだろう。日本は中国にとって仇敵であり、友人でもある。日本は中国の学生であると同時に先生であり、怒りの対象でもあるが親しみの対象でもある。拒絶しても、なおも強烈に引きつけられる国だ。

ここでは日本人の「責任感」と「恥を知る心」について話をしよう。以前、鳥インフルエンザが流行したとき、感染した鶏を流通させた養鶏場の経営者夫婦が自殺した。残された遺書には「たいへんご迷惑をかけました」という言葉が記されていた。中国ではメラミン入り粉ミルクやスーダンレッド（発がん性のある有害な着色料）、瘦肉精（赤身肉を増やすための化学薬品）に下水油（下水を再生して作った油）など、国民の生命を危険にさらした事件が数多く発生しているが、「私の責任です」と名乗り出た人間が1人でもいただろうか？まして「申し訳ない」と自殺した人などいるはずもない。

もう一つ例を挙げよう。2011年、当時JR北海道の中島尚俊社長が失踪。数日後に同氏の遺体が発見され、自殺と断定された。遺書には同年5月に発生した脱線事故について反省の言葉がつつられていた。せつ江省温州市で発生した高速鉄道事故では、当局の責任者はどんな態度を取っただろうか？しかも報道官は救出活動を打ち切った後に女兒が救出されたことについて「軌跡としか言いようがない」と述べている。あれほど重大な死亡事故を起こしておきながら、鉄道部の高官は平然と高給を受け取り、恥ずかしいとか申し訳ないとかいう気持ちはこれっぽっちも感じていない。

日本人は職務を遂行する際に、自分の名誉と信用を担保にしている。日本人にとって名誉は命より大事なのだ。日本の総理大臣はころころ変わるが、彼らのように正々堂々と辞職する中国の指導者を見たことがない。日本経済に追いつくことはできても、制度上の遅れはわれわれにとって致命傷だ。北京や上海などの大都市の建設は東京と比べても遜色はない。だが、空気や水がこれほど汚染され、国民13億人の生命が脅かされているにもかかわらず、誰も責任を負わず、有効な具体策も取られていない。

（翻訳・編集/本郷）

この記事を読んでどきっとした。中国にもこんな見方ができる人間がいるのだ。数は少なくとも

こんな見識を持った中国人が一人でも多くなってくれたら、こういう中国人が政治家になれる日がくれば、偉大な中国が出現するであろう。

つづく